



発行所  
全国曹洞宗青年会  
〒105東京都港区芝2-5-2  
曹洞宗宗務庁内  
発行責任者 吉川俊雄  
TEL.03-3454-5411代

# 平成六年度 全国曹洞宗青年会 総会の御案内

平成六年五月十日(火)

会場 宗務庁

午前十一時 理事会

十二時 評議員会

午後二時半 総会

四時 禅の集い中央研修会

五時半 懇親会

平成六年五月十一日(水)

会場 研修道場

午前九時 事務局・本部役員会

- 当日の運営の都合上、時間の変更があるかも知れません。
- 参加費壹萬円(総会・懇親会参加費)
- 大勢の総会参加をお願い致します。

## 全国曹洞宗青年会二十周年特別事業

### 「終戦五十回忌写経運動」

### 「五百羅漢に出会う」



今日、世界は東西の冷戦が終結したにもかかわらず、東欧では新たな内線が始まり、世界の何処かで戦争の火種が散り、残念ながら戦いの止どまることがない状況です。国内でも金銭至上主義が跳梁し、物質を主とした豊かさばかりを追い求め続けた為に、人と人が心を踏みにじる精神崩壊の時代とも言えます。

今日、世界は東西の冷戦が終結したにもかかわらず、東欧では新たな内線が始まり、世界の何処かで戦争の火種が散り、残念ながら戦いの止どまることがない状況です。国内でも金銭至上主義が跳梁し、物質を主とした豊かさばかりを追い求め続けた為に、人と人が心を踏みにじる精神崩壊の時代とも言えます。

このような中で、本年は太平洋戦争終戦五十回忌に当たります。この度、青年会は「終戦五十回忌写経運動」を広く全国に呼びかけることにしました。この写経運動は、戦争で命を失った万国殉難の人々への慰霊であると同時に、そして今も戦いの中で苦悩する人々がいる状況を痛み、世界の反戦平和の誓願を目的とするものです。また、この写経運動を通して過去の戦争が現代に示す数々の課題を今どのように受け止め、仏教の立場からどう考えるかを主体的

に問い掛け、この運動が僧俗を超えた反戦平和を目的とする仏教者の利他行として展開して行くことに大きな意味があると考えます。

「羅漢講式」には「五百羅漢は、仏の親しき付属を得て、現に世間に住し佛法を紹隆したもう・・・」とありますが、この写経運動の一環として、羅漢様になぞらえた「五百羅漢に出会う」をテーマに、青年僧が大結集することを決意しました。全国曹洞宗青年会は今年が二十周年目に当たります。まさに二十歳の成人式を迎えるのです。

この度の「終戦五十回忌写経運動」および「五百羅漢に出会う」が曹洞宗青年僧の二十一世紀に向けての記念すべき行事となることを信じてやみません。

何卒茲に多くの宗門大師そして青年僧のご理解とご協力をお願い致します次第です。

何卒茲に多くの宗門大師そして青年僧のご理解とご協力をお願い致します次第です。

## 破草鞋

日本子どもを守る会  
会長の大田堯氏は「人が人らしく育つために」という講演の中で、現在大人や子どもが生活している社会について、「この特別な豊かさは、その裏側に過剰な浪費がある」「この経済優先の風潮が、ものの本質を見ず、その金銭的価値しか見ないことに深刻な問題なのである」と指摘する。私達は、豊かな社会のニーズを追いかける余り高じたストレスをテレビ等でこまかして

いる。しかしそれは虚像である。氏は云う「本当の目当て(人が人らしく育つための)は、日々の生活に深く内在している」と。この功利的な社会の中で子どもや若者たちは歪められ、高齢者はかえりみられない。今、問題は日常にある。私達僧侶もその日常に居る。

84号では、「全日仏青」「九曹通信」両機関誌から記事を転載させて頂いた。どちらも、現代社会が抱える問題に視座を定め、取り組まれている。各地においても同様なテーマに取り組まれているところがあると思われる。お互いに地域を超えて「共有」できれば、さらなる展開が見られるのではないだろうか。私達にはその力はないのだろうか...



# 写経のすすめ

## 終戦五十回忌写経運動



—— 時を止め、仏の心を写してみませんか ——

太平洋戦争が終結して五十周年になろうとされていますが、その間にも、そして今も世界中でほとんど絶え間なく戦争が続いています。

今、時を止め、平和と生命（いのち）の尊さを振り返り、その心をお経の中に写しだしてみたいはかがでしょうか。

今は亡き親しかった人々やご先祖様に感謝の思いをたむけたい  
会い難きこのいのち、この喜びを一人でも多くの人と分かちあいたい  
未来の子供たち、そして生きとし生けるものの幸せを祈りたい  
全世界に戦争のない日が一日でも早く来ることを誓いたい

### 全国曹洞宗青年会二十周年記念

### 終戦五十回忌 写経運動について

全国曹洞宗青年会二十周年記念事業

終戦五十回忌写経運動

「時を止め、仏の心を写してみませんか」

平成六年八月三十一日迄

全国曹洞宗青年会

曹洞宗宗務庁 全国曹洞宗婦人会

一枚につき千円（納経及び写経納経供養料を含む）

大本山總持寺内納経所

・全国曹洞宗青年会独自の写経用紙を作成する。

・全会員寺院にポスター二枚、案内チラシ十枚、写経用紙五枚、振替用紙五枚、挨拶文一枚、返信用封筒五枚を送付する。

・協賛頂き写経用紙希望の御寺院には二十枚一口にして送付し実費一口千円を頂く。

・写経用紙は返信用封筒にて返送頂き、返送料は納経される方に実費負担をして頂く。

・納経料は赤色の振替用紙にて入金を願う事とする。

・納経供養後、回向証を送付する。

・郵便振替口座

仙台3-15178全曹青 写経係

平成六年十一月七日（月）友引

・大本山總持寺で開催予定の全国曹洞宗青年会二十周年記念大会の

法要の部にて写経納経供養として盛り込む。

納経供養

この誌上で以前掲載したように、九州曹洞宗青年会では昨年六月に現執行部（吉田興禅会長）がスタートしてから、「自己啓発への回帰（医療現場が青年僧に期待するもの）」と題し、理事会の度に講演会を行なっている。これは、「九曹青は各県曹青会の発展を基盤に成り立っている」という理念のもと、同時代的テーマのひとつ（医療現場からの呼び掛け）を各県各会員共通の問題として取り上げ、〈現代社会



における「青年僧（宗教者）」の立場を互いに見詰めていくことで、個々の意識を高め、また各々固有の姿勢を理解尊重し合うという思いの上に行なわれている。今回、掲載させて戴いた下記の記事は、この講演と同時に進行している「九曹通信」（第一号掲載分）の記事である。講演と機関誌連載とを連係させて二面から「自己啓発」をすすめ、「意識の共有」を図る試みと言える。

「俺は死なないつもりで生きてきた。でも本当に生きていなかった。」  
伊丹十三監督映画「大病人」の中で三國連太郎さん扮する主人公が、ガン告知を受けた後の言葉。

今病院での死亡率は約80%。現在の医療体制や社会状況下では、病院が臨終の場となるのはごく自然になりました。このため、誰にも看とられずに亡くなる方も少なくないそうです。残念ながら今までの病院では、死を迎えようとしている患者さんに、死を明らめるだけの心の余裕を与えてはくれませんでした。そのことが「病院で死ぬということ」（山崎章郎著）というお医者さん自身が書いた本によって明らかにされ、映画「大病人」製作のきっかけともなったのです。

さて、わずか十数年前を思い出して下さい。それも臨終の場面です！病人はその家の座敷に寝かされている。一ヶ月以上もの間でも、親族が交代でその看病にあたり、食事の量や息使いによって病状の悪化を感じ取っては、内に心の準備も整えていくのでした。やがて臨終の時、親族は、子や孫と一緒に枕元を囲み、その最後を涙ながらに看とります。近く人も、薄れゆく意識の中で、かすかに感じる親族の気配によって安らかに

時を閉じていく、看とる人と逝く人それぞれが、お互いに悲しみと辛さ、そして愛情を感じ合ったのでした。私たち僧侶の役目は、個人の枕元での読経を通して生前の面影を偲び、遺族と悲しみを共にする。そして遺族に対し、心の痛みを癒しながら無常の理や生を明らめ死を明らめる大切さを葬儀を通してそれとなく伝える努力をしていました。

きません。まさに、「死のタプルー化」です。ところが、技術の発達に伴わない臓器移植、脳死、尊厳死、安楽死、ガンの告知など今までに考えられなかったことが現実となり、延命のみを目指していた医療は生命の質を大切にす医療へと変わりました。人々には、死のタプルー化を本能的に気付き、「どう死ぬべきか、そしてどう生きるべきか」という不安が募り、なんとも言えない複雑な気持ちになりました。しかし、私の見る今日の現実はずりどおりあまり変わらない、変わらないどころかますます鈍くかやぐのです。

## 生と死について

### 自己啓発への回帰

## とりくむわけ

それが、いつの頃からか病院が臨終のばへと変わり、死の現実が病室の中だけにひっそりと仕舞い込まれました。延命治療が最善であると思われ、生命の質を無視した医療によって看とられた故人は、遺族との無言の対面、葬祭産業に乗せられた遺体は、荘厳過ぎる祭壇に安置され、盛大にありふれた葬儀がその一役を担った僧侶によって営まれる。そこには死の悲しみや辛さは伝わって

「生と死の意味や人生の価値」という問いが、改めて考え始めたのです。では、「生を明らめ、死を明らむ」という教えのもと日々参究しているはずの私達は？

映画「大病人」の中で、主人公が指揮者となって般若心経をオーケストラで演奏するシーンがありますが、その演出として僧侶数十名が舞台中央に出ています。いよいよ演奏が始まるとうとする時、先頭の僧侶が立軸

子（たてもす）を被っていないのに気が付き慌ててしまい、周りの失笑を買うという場面がありました。私はそれを見た時、時代はこのように確実に変化しているのに、生と死を見つめ実践すべき私達は、都合のよいことだけを受け入れて、このまま漫然と過ごしていいのだろうかという思いと、自分も本当の役目（映画の中の立軸子に象徴される）をいつの間にか放棄しているのではないだろうかという不安が募り、なんとも言えない複雑な気持ちになりました。しかし、私の見る今日の現実はずりどおりあまり変わらない、変わらないどころかますます鈍くかやぐのです。

今回の「自己啓発への回帰」という意味不明のテーマは、もともとどのようなことを表わしています。もしあなたが誰かに「おれは死なないつもりで生きてきた。でも、本当に生きていなかった」といわれ「死の意味を改めて問い掛けられたらどう？」そこに、九曹青の「生と死の問題」に取り組む理由があるのではないのでしょうか。

その答えを仮想した時、私達の回帰への第一歩が……。



連載  
最終回『私流わたくしの（初心者向け）仏教入門』元宮崎銀行頭取  
財団法人・仏教振興財団理事長

井上 信一



見守門人

大分県

「間に合ってよかった」

大分県に安波敷八という医師が居られました。この方の遺著「信仰体験記」に治らぬガンと告知された瞬間「あ、間に合ってよかった」と思ったという言葉があり、私にとり生涯の求道の目標となっています。著者の「聞法（求道）が死をスッと受容するまでに熟していたということですね。この本の中以上の図が描かれています。この図から私の話は始まります。

縦と横と同じ長さにして（多数の聴衆の場合、正面に大きく書く）〃二つの線のどちらが長いですか？と質問します。余ほどひねくれた人でない限り必

ず縦が長いと答えます。何故ならこの図は〃錯覚〃の典型なのですから。

この様に実は同じ長さのものを私たちはそうでないと思うように出来ている。お釈迦さまは〃あなたたちはいつでも物を逆さまに見ている〃と口を酸っぱくしておっしゃったのはそのことで、私も逆さまを逆さまと思わず、いつも本当は苦しいものを楽しいものと思いついでいるのです。その中心にあるのが〃自分の思うようにしたい〃心です。

縦の線がそういう私、井上信一という名前を持った肉体を示しています。この線の方が長く見えるということが、私どもがこれを一番大切と思っていることを表わしています。ところが

実はこの線を支えている横線がある。即ち私を生かしている太陽・空気・水・植物・動物、そしてホトケさまの大きな慈悲が横線なのです。自我（エゴ）一杯の私は何でも自分の力で出来ると思いついでいるので横線があることすら気が付きません。横線に気付くということ縦横の接点で示しています。人生で最も大切なのはこの接点であり、私はこれを人生の原点と呼んでいます。つまり「生かされていることに気付く」、「それに気付かない（気付こうとしない）自分に気付く」ことであ



り、二つの気付き」とも名付けています。原点のない人生（縦線だけの人生）はいわば幻の人生です。この接点（原点）は禅でいえば坐禅（只管打坐）であり、浄土教では念仏です。そういえば上は坐禅の姿に見え、合掌ともとれるではありませんか。ナムアマミダブツの心はアリガタイ（生かされている）スマナイ（生かされていることに気付かない）であるといわれるのももつともですね。日蓮宗における唱題、真言宗における阿字などすべてこの原点を象徴するものです。

原点において人（縦線）は横線とつながり、縦線を生かしている太陽を始めとする大きな命、また大きな命に生かされている諸々の命とつながっていることに気付きます。縦線は横線に支えられているばかりでなく、横線と同じ命を共有しているのです。坐った姿がそのまゝ「ま仏」というのはそのことではないでしょうか。私が宮崎で親しくし、ガンであることを知りつつ四十七才で亡くなった岡崎齊範という酪農家（伝記を私が書きました）は死の直前に

生かされて

生きる命と今朝の縁

と庭の蟻を呼んでいます。命を共有する感慨がにじみ出ているではありませんか。原点を持つことによる命の発見こそはこの上ない幸せと落ち着きではないでしょうか。坐禅は脚が痛いのに何故「安楽の法門」なのか、長いこと判かりませんでしたが、右のように考えると成程とうなずけます。原点の気付き、大きな命についての実感こそ、道元禅師の云われた「参学の大事」であると思われれます。玉城康四郎先生は「ダンマがこの身（縦線）に現わになる」と説明下さっています。

原点を持たたことは素晴らしいことですが、一日の生活を観察しますと、私などは原点から離れればなしです。事ある毎に原点に立ち返ることが、いわゆる悟後の修行であり、それによつてはじめて仏法が身につくのだと思われれます。周利槃特が

「塵を払おう」という言葉一つで解脱したように、日常における「アリガタイ・スマナイ」の常用が大切でしょう。

前回述べた夫婦のあり方も悟後の修行に欠かせないものと存じます。

以上が「わたくし流説法」の大意ですが、最後に米国の精神医エリクソンの話を付け加えたいと思います。

人間の心は段階を踏んで発達しますが、その第一に生じるものは基本的安定（信頼）感といわれるものです。それは人生は究極においてOKだという感じます。それが生じるのは赤ちゃんをしつかり抱っこし、おなかがいいたら適切に乳を与える（出来るだけ乳房から直接）ことによります。これによって安心感・信頼感の基礎が与えられ、その後の発達は健全に行なわれます。物質的な面で私どもが生かされているという事は前に説明しましたが、心・精神の面も根源の所で母親の愛（情ある行為）によつて与えられ、生かされているのだという事が明らかとなりました。そして信ということが根本だということはま

ことに大きな意味を持っています。禅にせよ浄土にせよ、私どもも仏教徒の根本にあるものは、釈尊の「すべての人に平等の幸せを与えたい」という悲願に対する信だと思っております。

以上で四回にわたる話を終わります。有難い御縁に恵まれたことを感謝しております。

この一月に「地球を救う経済学仏教からの提案」（すずき出版・一八〇〇円）を出しました。現代の経済学は確かにある種の大きな幸せを人間に齎しま

したが、それはいつも不平等で落ち着きのない幸せでしかありません。釈尊の願われた幸せを可能にする経済学がある筈だというのが、私の主張であります。

そういう正しい幸せに人々の目を開かせるよう全曹青の皆様のご精進を願ってやみません。ありがとうございます。



# 宗派を超えて

## □ 仏教徒としての青年僧 □

「全日仏青」第20号より

### 仏青の役割とは

全日本仏教青年会理事長

鎌原 泰彦



現代社会は、混迷の時代、宗教多様化の時代と言われ、環境、人権、老人、脳死と臓器移植を中心とした生命倫理の問題など、様々な問題が山積みにされています。また、現代人の悩みは複雑かつ広汎にわたり、しかも深刻になってきています。しかし、現場の仏教活動はどうでしょうか。大阪大学の木村英昭師は「教義不在の現場、そして現場不在の教義」と言っ

て、現在の仏教立場を痛烈に批判されています。その中で、仏教青年僧侶は、これらの諸問題に対して、戸惑いを感じつつ懸命に行動しようとして、試行錯誤を繰り返して活動しています。

そこで全日本仏教青年会では、昨年春の比叡山大会を機縁にしまして日本が抱えている現代の諸問題であります脳死・臓器移植問題、環境問題それから葬儀の問題を各研究会を作り、青年僧侶が何をしなければならぬのか、という話を話し合ってきました。そこで前理事長の任期二年間の集約として、比叡山大会のアピールがあった訳です。それを継承しまして、もう一步踏み込んで青年僧侶に何が出来るかを摸索しつつ、行動しているところです。環境問題については、豊かだ豊かだと言われて来て、結局、何が豊かなのか、心が豊かなのか、物質が豊富にあるから豊かなのか、これに対する根本的な問い掛けが、なされなければならないと考えます。

葬儀問題については、仏教が葬式仏教と言われるけれども、葬式は人の死を扱う一番大事な儀式なのだから、もう少し見直さなければならぬかと。ただ儀礼的に行なってしまえば、それは単に葬式仏教に終わってしまいます。もっと死を見つめる

ところ、という点から見ると、今以上の布教の可能性も出て来る場ではないか、仏教が活かされる場でもあると思えます。それから、ターミナルケアの問題は、出来るだけ早い内に新潟・長岡病院のビハラー病棟を新潟県仏教会を通じて視察し、そこで働いている医療関係者、ボランティアの僧侶の方々と話

し合って、今後の全日本仏教青年会の活動の方針にして行きたいと思えます。

次に、救援活動ですが、ただ募金を集めて現地に持って行くという事だけが本当の救援につながるのか、ということを考えてみたいと思います。そこで、救援の原点は何かということを実際（運営、救援、担当各委員会）、国内救援委員会の方々にお願いして加盟団体の青年僧侶、一般社会で救援活動をされている方々の声を聞きながら、どうすれば仏教精神にのっとった救援活動が出来るかを摸索して行きたいと思えます。





仏教ボランティアの実践をめざす。

# 全 日 仏 青

※「全日仏青」は全日本仏教青年会の機関誌です。

## 誇りと自主性を持つて

全日本仏教青年会前理事長

岸野 亮淳

昨年度まで理事長を務めさせて戴きました岸野でございます。在中には、皆様方のお力添えによりまして、研修、国内外の救援、広報、他団体の交流等、全日仏青固有の活動が展開できましたことにまづもってお礼申し上げます。

とくに全日仏青が「仏教ボランティア」を標榜して活動路線を敷き、最終的にはあの日本仏教聖地のひとつであります比叡山におきまして、大会を開催し「比叡山アピール」で「動く全日仏青」を宣言したことは銘記すべきことがらでございます。

全日仏青に集う皆さんは既成仏教団の青年僧侶がほとんどです。それ故、頭数は確かに多いのですが、いざ活動となる

①青年僧侶の活動が宗派型になる。

②檀信徒を中心とする寺院経営だけに腐心していればいい。

③教団・寺院の中に居るので危機意識もそれほどもない。という状況がありまして、どうも自由に動けないというか動かない。全日仏青集合総体としてはなかなか大きなうねり、力にはならない、というのが現実のようであります。

しかし、片方では「これでいい」とはほとんどの青年僧侶は思っていないと思います。「お坊さんでない人も含めて仏教者としての活動をしたい（現に神戸JTBなどがそれを実践しています。）」「アジアの問題は私たち仏教者の問題だ!」「ボランティア活動は他の宗教の専売ではないはずだ!」などの声はいつばいす。

だからこそ、現に、全日仏青は湾岸戦争終結へ向けてのアピール・救済募金の活動ができ

たり、ネパールヨード欠乏症対策活動、カンボジア仏教書復刻運動、鳥原普賢岳噴火被災に対する活動・救援金募集などの動きが大きくなったのではありませんか。

やはり「あなたの宗教は何ですか」と尋ねられたら、宗派を言うんじやなく「仏教徒です!」と言い切れる青年にならなくてはならないと思います。そして、仏教者として、お互い手をつなぎ合って体を動かすことのできる場を作り、提供していく、そういうネットを作ることもが大事だ、と痛感しています。

大手門大学特任教授のジェフ・バーグランドさん(テレビのCMでもおなじみ)は「ボランティアということばは日本語になおすと語感としては(立候補)というのがいちばん合っているようだ」と話していまし

た。

みなさん、どうか、自分が日本の青年仏教者たり得るべく、誇りと自主性をもつて「立候補」してまいりますようよ。全日仏青を通し、地域で、寺院内外で、仲間たちと一緒に動き回り、少しでもボランティア活動の足跡を作っていくようじゃありませんか。



■第10期執行部も一年が過ぎ、各委員会も後半の一年に向けて、過去1年間の総括のもとに新たな活動を展開すべく、取り組んでいます。

本年1月26日、大本山總持寺において行なわれた理事会・評議員会では、本部役員を合わせて50余名もの理事・評議員の方々の参集を得て、20周年に向けての会の運営について熱心に討議されました。各地、各曹青からの声は、全曹を大きく前に進める推進剤です。この意味で、多くの方々の意見が出されたこの日の会は、10期の後期に向けての推進剤となりました。

■平成6年の「花まつりキャンペーン」は全曹の運動とリンクして、静岡と大分で行事が持たれました。行事の共有が意識の共有を強め、将来のネットワークの下地として広がればと思います。

■「20周年記念事業」の写経運動も全会員諸兄の協力を仰ぎ、推し進められています。



写経という行を通して仏の心を写し、この事業を通して今の私達の思いを写していきたいものです。

■「曹青通信」の発行が不定期的になっており申し訳ありません。ひとえに編集子のいたらなさの結果です。お詫び申し上げます。それにも係わらず、賛助購読希望の通知を新に700名近い御寺院様、有志の方から頂戴致しました。深く御礼申し上げます。これによりまして賛助購読の方の総数は全寺院の1割に並ぶ、1,546名となりました。皆様の甚大なる御法愛に感謝致します。

甲斐 之彦 九拜

■このコーナーでは多方面にわたって色々な情報を掲載していきたいと思っています。会員の皆様からのお便りをお待ちしています。手紙・はがき・FAXなんでも結構です。情報交換の場、プラットフォームとなれば幸いです。

FAX (0979-32-7283) は24時間いつでも結構です。

曹 N 青  
W E  
小 S 窓  
SOSEI SQUARE

下の記事にもあります通りコンピュータ通信がつかえます。

電話回線を使います。今お使いのワープロでもできます。モデムという機器をつければ結構です。

お問い合わせは編集室まで  
TEL 0979-32-7283

■パソコン通信のソフトの不調でご迷惑をおかけしています。電話がパソコンと繋がりますと、

USER\_ID:

パスワード:

と画面に出ますので、下記のアンダーラインの部分を打ち込んで下さい。

USER\_ID: GUEST

パスワード: TEST

画面上でも操作説明(ヘルプ)が出ますが、マニュアルをご希望の方には送付いたします。

九州のはずれですので電話代の問題がありますが、Tri-Pなどの利用による通信費の軽減を思案中です。

ホスト局データ

TEL No: 0979-32-7215

通信速度: 2400bps

データビット長: 8ビット

パリティ: なし

ストップビット: 1ビット

Xon/Xoff制御: あり



同 同 同  
誤 誤 誤  
次期会長 同 次期副会長  
↓ ↓ ↓  
正 正 正  
貫主 貫首  
六項会則第十二条、二、①  
訂正・会長は、別に定める細則に随って選任する。  
訂正・副会長は、別に定める細則に随って選任する。  
々々②  
細則第三号第六条

第83号「曹青通信」誌上におきまして左記のような誤りがございました。  
関係各位にご迷惑をお掛けしましたことを陳謝致しますと共に、  
度んで訂正させて頂きます。  
広報委員長甲斐之彦合掌